

HOKUSEI GAKUEN UNIVERSITY  
COMMUNICATION MAGAZINE SUMMER

## 北星学園大学 北星学園大学短期大学部



### 02

特集  
元ジャンプ五輪代表・  
原田雅彦さんインタビュー

北海道から  
世界へ、  
未来へ。



### 04

大谷地交遊録

子供の  
コミュニケーションと  
自立の可能性を探る  
1週間。

—大谷地東チャレンジ合宿—

### 05

OB&OG インタビュー  
卒業生は、いま。

わが家で“生”を  
全うしたい。  
その願いに  
応える仕事に、  
誇りを持っています。



### 06

サークル活動  
汗と、涙と、友情と。

吹奏楽部

月に一度、  
音楽に親しむひとときを、  
地域のみなさまへ。



### 07

先生たちのその素顔  
経済学部 萱野智篤先生

フェアトレードで  
生まれた  
 Bangladesh との絆。  
学生とともに  
育んでいきたいですね。



### 08

HOKUSEI INFORMATION  
北星学園大学からのお知らせ。

- 第2回 北星学園大学  
障害児教育夏季セミナー
- 第39回 北星学園大学  
社会福祉夏季セミナー
- 北星学園大学社会福祉学部  
福祉計画学科公開講座
- 北星オープンユニバーシティ



## 特集 INTERVIEW

元ジャンプ五輪代表・原田雅彦さんインタビュー

# 北海道から 世界へ、 未来へ。

スキージャンプの第一人者、原田雅彦さん。

メダリストとしての輝かしい活躍の陰には、

実は本学文学部・佐々木敏教授との長年の交流がありました。

本学との意外なご縁で実現した今回の座談会。

やや緊張気味の学生インタビュアーを前にした

原田さんの笑顔はひときわやさしく、

まるでアニキのよう?でした。



## PROFILE

原田 雅彦

'68年5月9日北海道上川町生まれ。

小学校3年からスキージャンプを始め、東海大学付属第四高等学校を卒業後、雪印乳業に入社。アルペールビル('92)、リレハンメル('94)、長野('98)、ソルトレークシティ('02)、トリノ('06)の計5回の冬季オリンピックに出場。世界選手権と合わせて9個のメダルを獲得し、日本ジャンプ史上に大きな功績を残した。'06年3月現役引退を表明。現在は「雪印乳業スキー部」コーチとして後進の指導に尽力している。

ウィンタースポーツの魅力を伝えたい。

溝井: 私はスキー部に所属しています。北海道学生スキー連盟の副会長も務めさせていただいているのですが、競技人口が年々減少しているのを痛感しています。スキー競技を活性化するためのアイデアを、ぜひ原田さんに伺いたいのですが。

原田: それは私も同感ですね。いいアイデアがあったら教えてほしい(笑)。ただ、ウィンタースポーツの場合、季節や競技環境などの制限があることも人気低迷の理由のひとつかもしれません。私の子供もスキーよりサッカーに興味があるみたいだし(笑)。私は上川町の出身ですが、実家の裏にジャンプ台があり、そこで飛びたくて10才からジャンプを始めました。最初は怖くて怖くて、ようやくスタートして“落ちる”という感じで初めて7m飛んだ。次に挑戦したら8m飛べた。そして10m飛んで初めて転倒して、ジャンプの恐ろしさとともに、それを克服して先へ進むおもしろさを味わったんです。そんなふうには、子どものころからウィンタースポーツの魅力にふれる機会が増えれば活性化につながるのでは、と考えています。

溝井: 私もスキー連盟のレクリエーションや子どもスキー教室のアルバイトなどの場面では、つねに「みんなで滑る楽しさ」を伝えたいと思っています。

原田: 溝井さんはリーダーなんですね。点より線で、つねに広い視野でものごとを見ている。あなたのおかげで、たくさんの方が幸せになると思いますよ。スポーツは、まず楽しむことが大切です。向上心や集中力、チームワークや友情など、スポーツから学ぶことはたくさんあります。



経済学部経済学科3年生  
溝井 裕也

同じスキー競技者として  
大先輩の原田さん。お  
会いできて光栄でした!



経済学部経済学科3年生  
松田 佳織

テレビで拝見するとお  
り気さくな方で、あつという  
間の1時間でした。

とくに北海道に暮らす私たちにとってウィンタースポーツは、自然とふれあいながら人間として成長できるすばらしい機会です。私もこれからは指導者として、ますます多くの人にウィンタースポーツの魅力を伝えていきたいと思っています。

松田：私はいまチアダンスの部活に夢中なのですが、原田さんの高校時代の部活はいかがでしたか？

原田：スキー部に所属してジャンプに明け暮れていました。厳しい先輩もいたし、夏は基礎体力づくりで過ごしました。準備期間がすごく長いので、飽きないようにトレーニングを工夫したり。その頑張りのおかげで金メダルにつながったし、ここまで現役生活を送ることができたんだと思います。



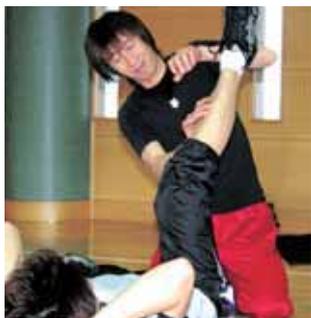
## 北星学園大学との意外な、深い縁。

溝井：原田さんは本学教授である佐々木敏先生と長い間交流されているそうですね。

原田：そうですね。佐々木先生とは全日本ジャンプチームのトレーニングドクターと選手という関係で、もう20年来のお付き合いになります。ジャンプは歴史の浅いスポーツなので、飛距離アップの理論やトレーニング法は試行錯誤の連続。そこで佐々木先生の専門であるバイオメカニクスの力をお借りして、ジャンプのフォームや筋肉の状態などのデータを細かく分析して“ジャンプの教科書”づくりに取り組んできたわけです。今でも佐々木先生の研究室にお邪魔して、ジャンプのフォームや身体づくりに関するアドバイスをいただいているんですよ。

松田：えっ、私たちの大学にもいらしてたんですか?! 知りませんでした(笑)。歴史が浅いスポーツといえば、私が取り組んでいるチアダンスも同様で、指導者不足が悩みの種です。私自身も後輩の指導をしていく中で戸惑うことが多くて…今春現役を引退されてコーチに転身されましたが、指導者として心がけていらっしゃることはありますか？

原田：立場は変わっても気持ちは選手時代と変わらないですね。私は今でもジャンプが好きで好きでたまらないんです。選手にアドバイスしながら「いま自分で飛びたい!」と思うこともしばしば。そんなふうに選手と心を共有することから、彼らの心に響く指導が始まるんじゃないかな。指導で一番大切なことは「愛」ですね。競技にも、選手にも、愛情を持って接すればきっとついてくる。松田さんにも「チアダンスが好き」という思いを後輩と共有しながら、新しいスポーツの歴史をつくってほしいですね。努力すれば必ず報われますから。



## 感謝と謙虚さを大切に、次の目標へ。

溝井：団体金メダルを獲得された長野オリンピックのとき、私たちは中学生でしたが、原田さんの存在がジャンプへの注目度を一気に高めたことは今でも覚えています。

原田：あのとき中学生でしたか…月日の流れを実感しますね(笑)。オリンピックが日本で開催されたときに現役の選手でいられたのは光栄なことでした。私がジャンプというマイナースポーツを続けてこられたのは、会社やスキー関係者、家族など多くの人々に支えられたおかげ。その感謝の気持ちをテレビを通じて伝えたい、と思っていたことが自然と私のキャラクターとして定着したのかもしれない。

松田：ご家族の支えは大きかったんでしょうか？

原田：どんなときでもご飯は作ってくれるし、下着も洗ってくれる(笑)。家族がいつも支えてくれているという思いがずっと心の支えになっていましたね。

松田：明るいキャラクターに加えて、つねに謙虚な姿勢にも選手としてのオーラを感じました。

原田：そう受け止めてもらえたらうれしいですね。両親も決しておごり高ぶらない人だったので、そういう姿を見て育つ環境を与えてくれた両親にも感謝しています。また、ジャンプの競技性も大きく影響していると思います。ジャンプ台に立つたび、厳しい自然と向き合い、自分の心と戦う一だから私は飛ぶ前に、ジャンプ台に向かって「よろしくお願いします」と心の中で頭を下げるんです。そういう経験の積み重ねが、自然と謙虚な気持ちを育ててくれたのでしょうね。

溝井：最後に、私たち若者へのアドバイスと、北海道のファンへのメッセージをお願いします。

原田：若いうちはよく食べよく寝てよく遊ぶこと!それがよりいい勉強やいい仕事へのエネルギーになりますから。そしてそれらの経験を糧にして、社会人として充実した人生を送ってほしいと思います。北海道のみなさんには、もっと冬の競技に興味を持ってほしいですね。大倉山に足を運ぶとか、ちょっとスケートリンクに行ってイナバウアーをやってみるとか(笑)。来年2月に札幌で開催されるFISノルディックスキー世界選手権大会を、ぜひ私と一緒に盛り上げてほしいです。大会史上初のアジア地域での開催とあって、世界の注目が札幌に集まっています。日本の若手ジャンプ陣の活躍にも大いに期待してください!



## COLUMN

### 原田雅彦の強さの秘密 バイオメカニクスとは？

文学部教授  
佐々木 敏  
(体育実技・健康科学)



バイオメカニクスとは、生体の構造や機能を力学や生理学、解剖学などの観点から総合的に研究・解析する学術分野のこと。全日本スキー連盟のトレーニングドクターも務める佐々木教授はバイオメカニクスの理論に基づき、選手一人ひとりのフォームや筋肉の動きをデータ化。パソコンや筋骨格モデルを使って解析し、飛距離アップに向けたトレーニング法の開発・指導を行っています。原田さんの数々の快挙の陰にも、佐々木教授のバイオメカニクス理論がありました。



## 大谷地交遊録 | Local Exchanges

学生交流会館  
"kirari"

# 子供の コミュニケーションと 自立の可能性を探る 1週間。

## 大谷地東チャレンジ合宿

2006.6.19~25

北星学園大学は「地域にひらかれた大学」として、  
地域貢献活動や地元住民のみなさんとの交流などを  
積極的に行っています。

今回レポートする「大谷地東チャレンジ合宿」もそのひとつ。  
1週間の合宿体験で、子供たちも学生スタッフも  
ちょっぴり成長できたかな？



### 大谷地東チャレンジ合宿とは？

「大谷地東チャレンジ合宿」は、文学部/心理・応用コミュニケーション学科の養内豊先生のゼミで卒業研究活動の一環として行っている企画で、大谷地東小学校の4~6年生を対象に、1週間の通学合宿の機会を提供しています。2年目となる今回は5年生10名(男8・女2)が参加。学生交流会館「kirari」で学生スタッフと生活をともにしながら学校へ通い、さまざまな体験活動を通してコミュニケーション能力や自立心を養っていきます。

### 大学生と小学生がともに成長する1週間。

合宿中、子供たちは学校から帰ってくると、互いに協力しあいながら毎日の夕食作りや洗濯、掃除などを行います。家族に代わってお世話をしてくれたり、勉強を見てくれたりする学生スタッフとの信頼関係もしっかり育まれているよう。リーダーの津元耕平さん(4年)は「ふだん小学生と接する機会がないので戸惑うかな、と思ったけれど、初日からみんなと仲良くなれました」と語ります。柔道選手で教職志望の片山侑子さん(4年)は合宿の「肝っ玉かあさん」的?存在。あちこちから「ゆこりん!」(合宿中のニックネーム)の声がかかる人気ぶりでした。



文学部  
心理・応用コミュニケーション学科  
4年生 津元 耕平



文学部  
心理・応用コミュニケーション学科  
4年生 片山 侑子

### 1日のタイムスケジュール

6:30 起床・朝食 ▶▶▶ 7:50 登校 ▶▶▶  
15:00 合宿所着/遊び・買い物・夕食準備・洗濯 ▶▶▶  
18:00 夕食・入浴・学習 ▶▶▶ 21:00 就寝



「これ安いよ!」うーん、鋭い!



今夜はちゃんちゃん焼きです。



包丁使いも慣れてきました。



宿題も忘れずにやりました。



洗濯だって自分でやるのです。



ああ疲れた…おやすみなさい。

### 徐々に家族と過ごす夕食大会。盛り上がりました!

さて、合宿終盤の6月24日(土)。参加した子供たちのご家族を招いて「夕食大会」が開催されました。もちろんメニュー考案から調理まで、すべて子供たちが実践。遠藤広貴くん(母・香代さん)は「意外とおいしい! こういった地域参加型企画を、どんどんやっていただきたいですね」と顔をほころばせました。

参加した子供たちからは「おもしろかった!」「家族と離れるのは初めてだったけど全然平気だった」という声。お父さん・お母さんとしては頼もしいような、ちょっとさみしいような…といった心境だったかもしれませぬ。



### 夕食大会メニュー

- ・パニックいなり・ピビンパ
- ・チャーハン・スープ
- ・パフエ



# OB & OG Interview

卒業生は、いま。

わが家で“生”を全うしたい。  
その願いに応える仕事に、誇りを持っています。



今でも週1回の大学での活動にOGとして参加しています。



勤医協札幌西区病院 医療福祉課  
医療ソーシャルワーカー

森 友恵さん

2002年3月 北星学園女子短期大学生活教養学科卒業  
2002年4月 北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科編入学  
2004年3月 北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科卒業

## 3世代同居で育まれた、 高齢者へのまなざし。

長期療養の費用負担や退院後の介護など、高齢者医療の問題はさまざま。こうした問題に対して社会福祉関連制度の視点から適切なアドバイスを行い、高齢患者とその家族が安心して治療・療養に専念できるよう支援するのが、医療ソーシャルワーカーです。

現在、医療ソーシャルワーカー2年目の森友恵さんも、高齢者と身近に接する環境の中でこうした問題意識を育んでいったようです。

—「私は幕別町という小さな町の出身で、3世代同居のにぎやかな農家で生まれ育ちました。だから祖父母と一緒に暮らすのは当たり前、と思っていたのですが…町内には、子供たちが都会に出てしまっていて農家をやっていけなくなったり、健康不安を感じながら暮らしている高齢者家族が決して少なくなっているんです。高齢者が住み慣れた場所で“生”を全うするためにできることはないか—そんな思いが、医療ソーシャルワーカーを志すきっかけになりました」。

短大在学中には平賀明子先生の研究のお手伝いで、高齢者家庭への聞き取り調査を担当。森さんが高齢者へ寄せる思いは、調査姿勢にも現れていたようです。

—「調査対象の方とお話しているうちにケーキをごちそうになったり…初対面の高齢者と接した体験は、今の仕事にも生きているかもしれませんね」。

## ハンドベルに熱中した4年間。 そして社会人として、いま。

短大卒業後は本学社会福祉学部福祉計画学科に編入。医療ソーシャルワーカーをめざして勉強に励む傍ら、森さんが打ち込んだのが「ハンドベルクワイア」の活動でした。

—「短大時代は指導者がいなかったため、ほとんど手探りでどうにか演奏していました。それが4年生になってすばらしい指導者にめぐり逢えたんです！正しく演奏するとこんなに音色が違うのか、と驚きましたね。その後コンサートのお話をいただき、短期間ながら猛練習を重ね、資金集めや広報活動に奔走。本番では満員の会場で最高の演奏をすることができました。厳しく指導してくださった先生、一緒に困難を乗り越えてきた仲間が存在がありがたくて…私も少しでもお返しができればと思い、現在はOGとして週1回の活動に参加しています。人との縁ってすばらしいな、と思いますね」。

多忙ながらも充実した毎日を送る森さん。

—「高齢者医療は1人の患者と長く関わるケースが少なくありません。だからこそ心身ともに回復に向かわれる姿にやりがいと責任を感じ、一人ひとりの人生の重さを痛感します。事情はさまざまですが、多くの患者とご家族が願う『わが家で“生”を全うすること』を実現するために、これからも全力で支援していきたいと思っています」。



短大時代のハンドベルコンサート



患者さんと面接する森さん

## CIRCLES

汗と、涙と、友情と。

# 【吹奏楽部】

## 月に一度、音楽に親しむひとときを、 地域のみなさまへ。

北星学園大学には現在約70のサークルがあります。

その中でも30年以上の伝統を持つ吹奏楽部は、毎月1回「CAPO大谷地」でコンサートを開催するなど、積極的な地域交流活動を展開しています。今回はひとりの新入部員の青春模様を密着レポート!



### 緊張、感動、達成感…新入部員の熱い1日。

村瀬友孝さん(経済学部経済法学科1年)が吹奏楽部に入学したのは、友人の誘いがきっかけでした。全くの未経験だったものの「カッコ良さにひかれて」テナーサクソに挑戦。「初めは音が出ないし、唇は腫れるし大変でした。でも全員で合わせたときのきれいなハーモニーがうれしくて、放課後や授業の合間を見ては練習してきました」。部長の清水和也さん(社会福祉学部福祉臨床学科3年)も「聴いてくださる方々はもちろん、演奏する側も楽しむことが大切。それを実感できる機会が増えてくれば、もっと上達すると思うよ」と、先輩らしいひと言。

この日のCAPOコンサートは村瀬さんの初ステージ。しかも最後の曲『上を向いて歩こう』では2人の仲間とともにボーカルも担当!さて、感想は?

「緊張のあまり難しい箇所まで手が止まってしまったりしたけど、楽しかった!この喜びが観客にも伝わるような演奏をしたいという意欲が湧いてきました」。

次のCAPOコンサートでは、さらに成長した村瀬さんのテナーサクソが響くにちがいありません。



CAPOコンサート  
初ステージを体験した  
村瀬 友孝さん  
経済学部  
経済法学科1年生



部長の  
清水 和也さん  
社会福祉学部  
福祉臨床学科3年生

## COLUMN クラリネットの秘密

♪ババからもらったクラリネット♪なつかしいあの歌でおなじみの木管楽器。ふくよかで透きとおった響きは、かのモーツァルトも愛したことで有名です。クラリネットの原型は今から約250年前にフランスとドイツで生まれ、その後ヨーロッパ各地に広がり改良されて現在の形になっていきました。吹奏楽では幅広い音域を活かして、主にメロディを担当。その表情豊かな音色にふさわしく、クラリネット担当の吹奏楽部員たちも、全身を使った表現力豊かな演奏を披露してくれました。



## 6.17 CAPOコンサートドキュメント

【演奏曲目】♪青春アミーゴ ♪春の猟犬  
♪となりのトトロ ♪上を向いて歩こう

13:00



バックステージで各自音出しやチューニング。おそろいのTシャツは部員がデザインしたオリジナル。

18:20



スタンバイ。ステージのセッティングやアンケート用紙の配布など、全員がきびきび動いて短時間で完了。

18:30



演奏開始。「春の猟犬」は初心者には難曲、ちょっと間違っちゃった!子供も大人も、演奏する部員も大好きな「となりのトトロ」。



『上を向いて歩こう』でボーカルにも挑戦。帽子を取ってご挨拶、キマッタ?!

19:00



初めてのコンサート、無事に終了。お疲れさまでした!

## Featured Faculty Member

### 先生たちのその素顔

●経済学部 萱野智篤先生●

フェアトレードで生まれた  
バングラデシュとの絆。  
学生とともに育んでいきたいですね。



## PROFILE

萱野智篤

- 1984 北海道大学法学部卒業
- 1991 北海道大学大学院法学研究科  
博士後期課程単位取得満期退学  
国連開発計画(UNDP)プログラムオフィ  
サーとしてバングラデシュ人民共和国  
ダッカ事務所に勤務(~1993)
- 1993 日本赤十字社の連絡調整員としてバン  
グラデシュにおける住民主体の災害  
対策と母子保健事業に従事(~1996)
- 1996 北星学園大学経済学部専任講師に着任  
国際政治学・平和学担当
- 2001 同学部助教授に昇格

### バングラデシュの女性たちが描く、奇蹟の刺繍。

この色鮮やかに描かれた絵画の数々、実はすべて一針一針手で刺した刺繍なんです。これがバングラデシュの伝統芸術、ノクシ・カンタです。ノクシ・カンタは、バングラデシュ独立後の民俗芸術復興運動の中で、恵まれない女性の自立を助ける事業として再生・発展してきました。

私は国連職員としてバングラデシュに在任中、初めてノクシ・カンタを見て、感動のあまりその場を動けなくなりました。語り継がれる民話や歴史の一コマを描き出す巧みな構成や緻密な技術はもとより、一針一針に込められた女性たちの思い—貧困や苦難にさらされながら、それでも自らの力で立ち上がり、生きようとする人間の誇りと尊厳をひしひしと感じたんです。以来私はノクシ・カンタに魅せられ、日本にもさまざまな形でその作品を紹介し続けています。現在本学で活動している「北星フェアトレード」も、そのひとつです。

### フェアトレードで見えてくる、大切なこと。

「フェアトレード」という言葉、最近では耳にしたことのある方も多かもしれませんね。フェアトレードとは、発展途上国に対して単なる資金援助ではなく、適正な価格による商品取引を行うことで持続的な生活向上を支えること、さらにその国の文化的価値を国際的に認知してもらうことをめざすものです。

「北星フェアトレード」発足のきっかけは、学生たちと昨年12月に開催したフェアトレードの学内イベントでした。会場ではノクシ・カンタのタペストリーやクッションカバー、ペンケースなどを販売し、大きな収益をあげることができました。ある学生は「来場者にノクシ・カンタに描かれた物語について質問されたのに答えられなかった…情けない」と話しており、国際協力の意義はもとより、文化理解の重要性も肌で学んでくれたのでは、と思っています。5月にはNPO法人の協力のもと、2度目の即売会も実現。今後は年2回のイベント開催をめざしたいですね。学生からもインターネット通販のアイデアなどがあがっており、若き国際協力の担い手たちに大いに期待しています。

地域のみなさんにもぜひノクシ・カンタの魅力とフェアトレードの意義を知っていただきたいので、イベントの折にはぜひ足をお運びください。



色鮮やかなノクシ・カンタを縫いあげるバングラデシュの女性。



数多くの作品がフェアトレードに出品されます。

お問い合わせは、  
004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1  
北星学園大学 萱野智篤  
Tel.011-891-2731 / 内線1702  
e-mail:kayano@hokusei.ac.jp



## SEMINAR

教育現場の  
ノーマライゼーション実現のために。

第2回 北星学園大学障害児教育夏季セミナー

### 軽度発達障害児・者への 具体的支援の考え方と実際

特殊教育から特別支援教育への移行が着実に進む中、軽度発達障害のある人々への具体的支援の可能性を探る特別セミナーです。

- 講師 / 杉山 登志郎 (あいち小児保健医療総合センター)  
館農 幸恵 (北翔会札幌あゆみの園)  
堀内 紀久美 (北海道真駒内養護学校)  
鈴木 瑞哉 (北海道障害者職業センター)
- 日程 / 8月7日(月)
- 会場 / 北星学園大学内教室
- 定員 / 先着300名(定員になり次第締め切ります)
- 参加対象者 / 特別支援教育関係者、保護者、その他の関係者、本学学生
- 受講料 / 1,000円(当日受付にてお支払いください)
- 申込締切 / 7月25日(火)

日本の社会福祉の現在、  
そして未来とは？

第39回 北星学園大学社会福祉夏季セミナー

### 社会福祉は どこにいるか・どこに行くか

国家財政危機や社会保障構造改革、公益法人改革などの社会的変化に伴い、社会福祉の今後の方向性が強く問われています。本セミナーでは日本の社会福祉の現状と展望について、講演やシンポジウム、分科会などを通じて考えます。

- 日程 / 9月7日(木)・8日(金)
- 会場 / 北星学園大学内教室
- 定員 / 140名(定員になり次第締め切ります)
- 受講資格 / 社会福祉に関心を持ち、期間中受講できる方。
- 受講料 / 4,000円(2日間分)  
※レセプションに参加される方は会費1,000円が別途必要です。
- 申込締切 / 8月3日(木) 必着(申込書および受講料入金)



※写真は昨年行われたセミナーの様です。

各セミナー、講座、オープンユニバーシティ  
お申込み・お問合せ先

北星学園大学 エクステンション課 (C館1階) Tel.011-891-2731(代表) Fax.011-896-8311(直通)

## OPEN CLASSES

気になる老後を、  
ドイツの視点から考える。

北星学園大学社会福祉学部 福祉計画学科公開講座

### ドイツの年金と介護保険 —現状と課題—

高齢化時代のいま問われる年金や介護の問題について、日本の介護保険のベースとなったドイツの現状と課題をもとに考える特別講義です。

- 講師 / H.コンラット氏(ドイツー日本研究所 副所長)
- 日時 / 10月30日(月) V講目(16:20~17:50)
- 会場 / 北星学園大学内教室
- 受講料 / 入場無料。事前申込は不要です。直接会場へお越しください。



※写真は最近行われた公開講座の様です。

## OPEN UNIVERSITY

新たな世界が広がる、  
社会に開かれたオープン講座。

北星オープンユニバーシティ

### 語学や資格取得の生涯学習を通じ、 人材育成、交流の場を提供。

社会人、卒業生に在生も交えた生涯学習の機会として多彩な講座を開講しています。後期は10月13日(金)より、新規4講座を含め57講座の開講を予定していますので、ぜひ受講してください。  
※募集は年2回実施しています。

- 申込期間 / 9月2日(土)~9月22日(金)
- 募集講座 / 「語学」「資格取得対策」「文化・教養」「ビジネス・社会連携」「キリスト教神学」など
- 申込方法 / 募集講座の詳細は8月下旬にホームページでご案内します。  
※ホームページアドレス  
本学のホームページ (<http://www.hokusei.ac.jp>)から「オープンユニバーシティ」をクリックするか、または、<http://www.open.hokusei.ac.jp>へ直接アクセスしてください。  
ホームページをご覧いただけない場合は、電話で案内書(無料送付)をご請求ください。  
※写真は最近行われたオープンユニバーシティの様です。

